

<第三種郵便物認可>

日韓議員が拉致被害者救出組織

【ソウル＝加藤達也】北朝鮮による拉致被害者の横田めぐみさん＝拉致当時(13)＝が「2004年末から05年初めにかけて生存していたと聞いた」とする脱北者の証言を公表した韓国の野党、自由先進党の朴宣映議員ら日韓の国会議員が11月6日、ソウルで拉致被害者救出組織を発足させる。

韓国側メンバーには与党ハン

ナラ党の金炯旻前国会議長や黄祐呂院内代表ら与野党の有力議員33人が参加。日本側からは中井洽元拉致問題担当相や風間直樹参院議員ら与野党の議員が加わる意思を示しているという。

韓国側では当面、韓国人人拉致事件の詳細や被害者の解放要求を盛り込んだ国連決議の採択を目指し、北朝鮮の人権状況を世界に訴える。

韓国では日本人拉致については国民に広く認知されている半面、朝鮮戦争後に拉致された500人以上の自国の拉致被害者に対する関心は高くはなく、政府内には日本の拉致問題対策本部のような専門部署もない。

しかし今年、知人の勧めで1985年に北へ渡り安否不明となっていた申淑子さん(69)が2人の娘と政治犯収容所にいること

が判明。戦争捕虜や拉致被害者救出活動の機運が高まった。

議員組織の名称は申さん母娘とめぐみさんの生還への願いを込めて「申淑子＝めぐみ送還のための韓日(日韓)議員連帯」となった。朴議員は議員間の連帯について「双方の国民の代表である国会議員が(拉致解決に向け)協調すれば国際社会での影響力も大きいと思う」としている。

めぐみさんの生存情報については、拉致問題対策本部が近く本格的に調査する方針を決めている。

来月6日発足